

第 40 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2009 年 11 月 21 日～23 日（金沢大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：TDM（1）	
日付：11月21日（土）曜日、セッション時間：9：00～10：30	
司会者名（所属）：川本義海（福井大学）	
討 議 内 容	<p>セッション全体： 都市高速を対象に、料金変動を用いた交通需要推計と需要管理の効果について予測モデルなどを用いて効果分析したものである。おもに交通行動実態との比較検討による予測モデルの精度および仮定の妥当性について議論された。いずれも実用的な研究論文であり、効果検証と施策導入の妥当性を明らかにする上で有用な視点と提案をおこなっており、活発な質疑応答となった。また効果としてとらえる指標についても議論となり、提案されている効果指標の妥当性、また信頼性と説明力向上のための具体的な提案もなされた。</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：（106）石田貴志（株）道路計画・野中康弘・三橋正彦・平井章一 モデル上で交通総需要量変化の考慮の有無による影響、評価指標として総所要時間を使用することの可能性と意義、割引時間帯区分の細分化と時間的に差をつけるかつかないかの差異による検討、交通目的の明示化による効果内容の吟味などについて議論された。</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：（107）岩武宏一（関西大学大学院）・井ノ口弘昭・奥嶋政嗣・秋山孝正 料金の下限値を無くすなど、バリエーションを多くすることによる利用者の受容性、公平性を考慮することの可能性、乗り継ぎ効果はケースバイケースという可能性、対距離料金から乗り継ぎを考慮することでの影響、短中距離を積極的に高速道路にシフトする効果への期待などが議論された。</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：（108）Zhi ZUO（Nagoya University）, Ryo KANAMORI, Tomio MIWA, Takayuki MORIKAWA We discussed about policy options of three cases; cordon pricing (case1), optimal toll points for artery road subset pricing (case2), optimal toll points for central urban area road subset pricing (case3). ‘What is social benefit unit’, ‘How to check the maximum social welfare’, validity of the toll level were also discussed.</p>